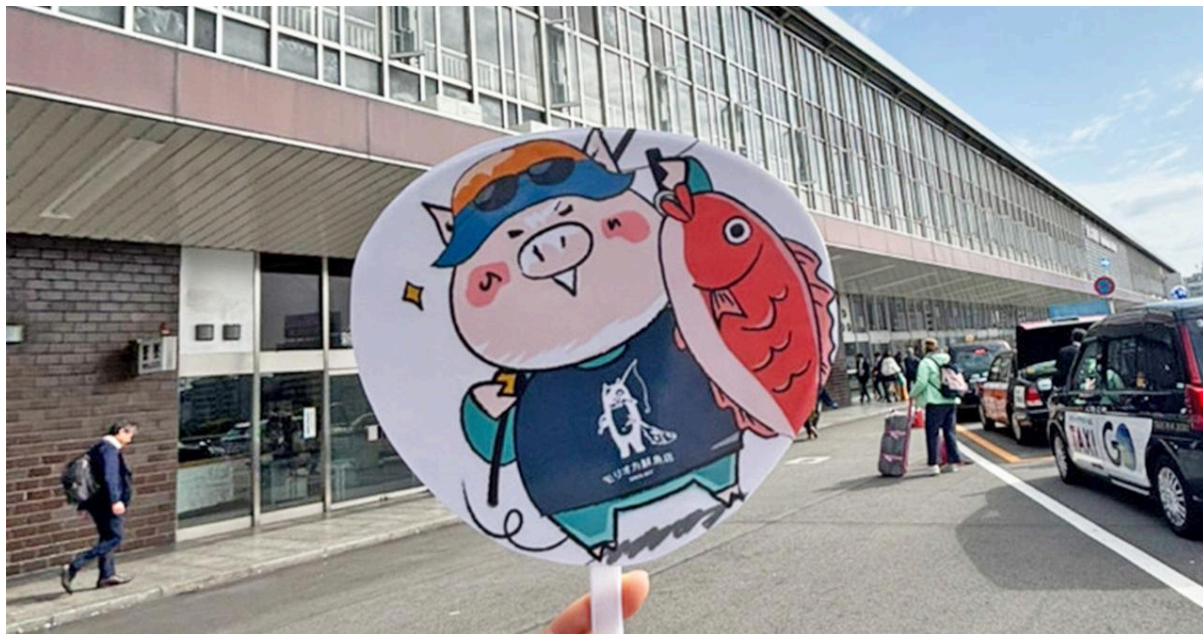


【大阪】社長が脳梗塞で緊急入院。社員23名のWEB制作会社が直面した現実と、顧客満足を維持したまま全プロジェクトを完遂させた「分業体制」と「逆プレゼン」の全貌



～ 中小企業のワンマン経営脱却と、事業継続(BCP)の新たなモデルケースへ ～

大阪を拠点にWEBサイトの企画・制作・運用管理を手掛けるエムダブ株式会社(本社:大阪府大阪市、代表取締役:森岡 昇馬)は、2025年12月末、代表の森岡が脳梗塞により突如倒れました。

繁忙期の年末、そして社長の長期不在という中小企業にとって最大の危機。しかし、同社は顧客満足度を損なわずに全てのプロジェクトを完遂し、事業を継続させました。それは、約1年前から着手していた「徹底的な工程の分業化」と「組織の棚卸し」があったからこそ。

本リリースでは、危機で見た組織の強みと不足、誠実に向き合った半年間の軌跡、そして現在進行中の「社長への逆プレゼン」を通じた、従業員主体の組織改革の現在地を公開します。

●トピックス

- 【背景】12月末、突然の不在。23名の組織を救ったのは1年前からの「棚卸し」
- 【実績】顧客満足度を損なわず全案件を完遂。分業制が社長不在の穴を埋めた

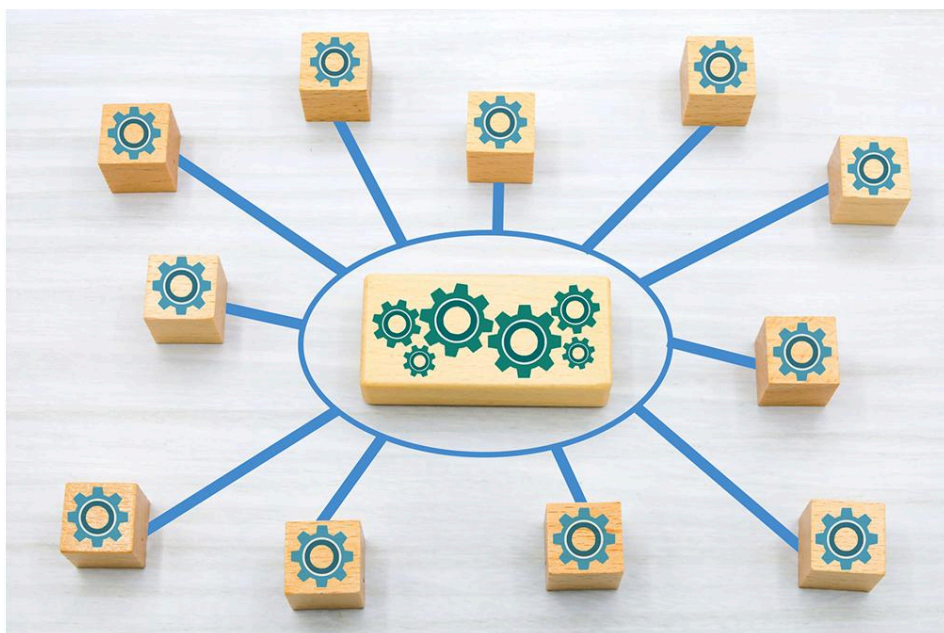
- 【展開】「社長を待つ」から「自分たちが形作る」へ。病床の社長へ贈る未来の事業計画

最も忙しい12月末、突然の社長不在



2025年12月末、WEB制作業界が最も慌ただしくなる年末の仕事納め直前に、代表の森岡が脳梗塞で緊急搬送されました。一時は意識不明となり、現在もリハビリによる入院生活が続いています。社員数23名、最終決定の多くを社長が担っていた同社にとって、この事態は事業停止に直結しかねない衝撃でした。しかし、この極限状態においても、エムダブの組織が崩壊することはありませんでした。

1年前から備えていた「工程の分業化」という防波堤



同社が致命傷を免れた要因は、約1年前から着手していた業務プロセスの徹底的な分解と、チーム制への移行にありました。それまで属人的になりがちだった工程の棚卸しを行い、各専門領域を明確に定義していました。

【確立されていた専門分業体制】

- 企画営業・アカウントプランナー
- ディレクター
- ライター
- デザイナー
- コーダー
- 運用推進
- 経理・総務

不在で見た「組織の穴」を、従業員の「逆プレゼン」で埋める



事業は滞りなく回ったものの、社長不在は「仕組み化しきれていなかった経営判断の空白」という課題も明確に浮き彫りにしました。しかし、現場のリーダーたちはこれを「組織の伸びしろ」と捉えました。現在はリーダーたちが主軸となり、不在中に直面した課題を解決するための「新体制案」をまとめ、入院中の森岡へ直接プレゼンを行っています。

「現場のことは自分たちがやる。社長は安心してリハビリに専念し、復帰後はより高い視点でビジョンを描いてほしい」。従業員が経営のバトンを自ら引き継ごうとするこの「逆プレゼン」こそが、エムダブがこの半年で手に入れた「真の従業員主体組織」への進化の証です。

社会的意義: 中小企業のBCP(事業継続計画)のモデルとして



「もし明日、社長が倒れたら？」これは多くの中小企業が抱える潜在的なリスクです。

エムダブの事例は、日頃からの「工程の分業化」が、単なる業務効率化に留まらず、不測の事態における強力な「事業継続の仕組み」になることを示しています。

私たちはこれからも、社長と従業員が新しい関係性で高め合う「従業員主体の組織」として、社会に価値を提供し続けます。

【会社概要】

大阪を拠点に、WEBサイトの企画・制作から運用までをワンストップで提供。創業20年、社員23名の規模を活かした柔軟なチーム体制で、「わたしリズム」プロジェクトなどの社会貢献活動や独自の働き方改革を推進しています。

- 会社名: エムダブ株式会社
- 所在地: 〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎3-15-4 ローゼン 303号室
- 代表者: 代表取締役 森岡 昇馬
- 創業: 2005年1月
- 事業内容: WEBサイトの企画・制作・運用管理、システム開発等
- コーポレートサイト: <https://www.webkikaku.com/>
- わたしリズムプロジェクトページ: <https://www.myrhythm.jp/>
- わたしリズム インスタグラム: <https://x.gd/vkqlE>

【メディア関係者の皆様へ】

本件では、社長不在という危機を乗り越えるまでの「現場のリアルな葛藤」や「仕組みが機能した

瞬間」を包み隠さずお伝えしたいと考えております。

入院中の代表・森岡による決断の背景や、現場で組織を支え「逆プレゼン」を行ったチームリーダーたちへのインタビュー取材も積極的に受け付けております。「もし社長が倒れたら？」という多くの中小企業が抱える不安に対し、綺麗事ではない実体験に基づいた解決のヒントなど、ぜひお気軽にお問い合わせください。

【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】

エムダブ株式会社 広報担当（小八重・菅家）

TEL: 06-6372-3373

Email: [広報担当者メールアドレス] koushin@webkikaku.com